



セレナの母親は心配そうに尋ねた。

「将来、何らかの刺激を受けたときに、思い出  
すかもしれませんが、永遠に思い出せないこ  
ともあります」

医者はその話し、去って行った。父親は母親  
の肩に腕<sup>うで</sup>をまわし、

「娘が忘れたがっているのであれば、私達はそ  
れを尊重しよう」

と言った。両親はセレナがしっかりと胸に抱  
えていたノートを柵<sup>たな</sup>の隅におき、何事もなか  
ったかのように振<sup>ふ</sup>る舞<sup>ま</sup>った。

セレナは退院後、ミスエンジェルとノラ  
のことをすっかり忘れてしまっていた。家族は